

登録No. G-005  
 登録名 Onivyde/5-FU/1-LV療法  
 催吐性リスク 中等度  
 適応疾患 肺癌  
 投与スケジュール

	薬剤	投与量	最大投与量	投与日	投与経路	投与時間	備考
Rp.1	Na <sup>+</sup> リンNa <sup>+</sup> 用注射液	1本/body		d1・3	CVポート		投与前フラッシュ 投与後ロック
Rp.2	パロノセトロンバッグ デキサメタゾン	50mL/body 9.9mg/body		d1	CVポート	30min	必要あればアプレピタント併用
Rp.3	オニバイド 5%ブドウ糖液	70mg/m <sup>2</sup> 500mL/body		d1	CVポート	90min	インラインフィルター禁 UGT1A1 ホモ・ダブルヘテロの場合は 50mg/m <sup>2</sup>
Rp.4	レボホリナート 5%ブドウ糖液	200mg/m <sup>2</sup> 250mL/body		d1	CVポート	2hr	オニバイド終了後開始
Rp.5	5-FU 生食	2400mg/m <sup>2</sup> 適量		d1	CVポート	46hr	インフューザーポンプ使用 生食量は換算表参照

1クルルの期間 2週間  
 その他（副作用・PS規定等）

- ・一次治療における有効性安全性は確立していない
  - ・術後補助療法における有効性安全性は確立していない
  - ・ECOG PS 0-1および2の一部良好な症例
  - ・十分な骨髄機能および臓器機能が保たれている
- Neutr $\geq$ 1500/mm<sup>3</sup>、Plt $\geq$ 10万/mm<sup>3</sup>、T-Bil $\leq$ ULN、ASTおよびALT $\leq$ 2.5 $\times$ ULN（肝転移を有する場合 $\leq$ 5.0 $\times$ ULN）  
 Ccr $\geq$ 30mL/min
- ・前治療の影響から回復し、Grade $\geq$ 2の有害事象が残存していない
  - ・投与量の調整：好中球減少、白血球減少、血小板減少、下痢：Grade3以上（好中球減少はGrade3以上又はFNとなった場合）→オニバイド・5-FUを1段階減量  
 悪心・嘔吐：Grade3以上→オニバイドを1段階減量  
 その他：Grade3以上→オニバイド・5-FUを1段階減量
- オニバイド：UGT1A1 Wild type、シングルヘテロ→開始用量70mg/m<sup>2</sup>→1段階減量50mg/m<sup>2</sup>→2段階減量43mg/m<sup>2</sup>  
 UGT1A1 ホモもしくはダブルヘテロ→開始用量50mg/m<sup>2</sup>→1段階減量43mg/m<sup>2</sup>→2段階減量35mg/m<sup>2</sup>
- 5-FU：開始用量2400mg/m<sup>2</sup>→1段階減量1800mg/m<sup>2</sup>→2段階減量1350mg/m<sup>2</sup>
- ・主な有害事象 下痢、悪心・嘔吐、食欲不振、倦怠感、好中球減少、貧血  
 （肝機能・腎機能障害、血栓塞栓症、心筋梗塞、腸炎、腸閉塞、狭心症、消化管出血、心室性期外収縮、DIC、間質性肺炎）